

指定校番号	30006	学級活動	○ 児童会活動	クラブ活動	学校行事
-------	-------	------	---------	-------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市小学校	校長	生田 徳廉	生徒指導主事	瀬尾 啓子
-----	-------------	----	-------	--------	-------

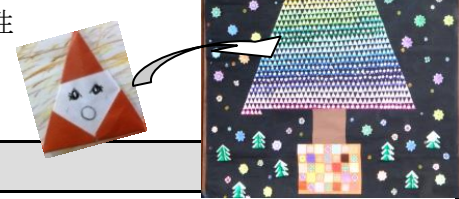
取組事例名 『つながろう！レインボーツリー プロジェクト！』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「思考力・表現力」	3	「主体性」	2	「自己有用感」	1

取組のねらい『キーワード：主体性・自己有用感を育む』

- 委員会の活動を通して、児童の主体的に取り組む力・自己有用感を高める。
- ①他者とコミュニケーションをとり、協力しながら作品をつくる。→自己有用感
  - ②自分の役割を主体的に見出し、活動することができる。→自主性
  - ③自分の存在意義を感じることができる。→自己有用感
  - ④作品ができたときの達成感を感じる。→自己効力感



取組の具体的内容『キーワード：つながり』

★廿日市市学校教育の「つながり支援プロジェクト」の一環として、本校では、各委員会において、学校を良くするために何ができるかを児童に考えさせ、主体的に取り組むことを推進している。

その中で、保健委員会では、廿日市小学校のみんなの心を元気にするために何ができるかを考え、今回の取組を行うこととなった。保健委員会が中心となり、児童・教職員全員が折り紙を折ることに参加し、約800枚の折り紙のパーツをつなげて、1本の巨大な「レインボーツリー」を完成させるという共同製作に取り組んだ。

- ①保健委員会で、「廿日市小学校のみんながつながって、笑顔いっぱいの学校をつくっていこう！」を合い言葉に活動を進めることを確認し、委員の意欲を高める。【保健委員の児童どうしのつながり】
- ②今回は、1人1人が折った折り紙のこびと（低学年も折りやすい）をつなげて、全校でビッグツリーを作成するプロジェクトに取り組むことに決定する。  
(日頃から保健室では、養護教諭による折り紙を用いた活動により、児童の心の安定につなげている。)
- ③保健委員会で、今回使用する折り紙の色を考え、校長先生に相談して、レインボーになるよう21のクラスカラーを決める。【校長先生と児童とのつながり】
- ④プロジェクト名は、保健委員会の児童がアイデアを出し合い、話し合っ、「つながろう！レインボーツリー プロジェクト！」に決定。
- ⑤このプロジェクトについて、放送で全校児童にPR。(PR文は児童が考える。)
- ⑥保健委員が朝の会に各クラスに出向いて、折り紙の折り方を教える。顔と名前も書いてもらう。(1年生にも分かるように教えるにはどう説明したらよいかを考え、資料を作成し、何度も練習して本番に備えた。)【児童どうしのつながり】
- ⑦担任以外の教職員にも、自主的に説明し作成してもらう。【教職員と児童とのつながり】
- ⑧委員会で分担して、折り紙のこびとの数の確認・点検を行い、台紙にテープで貼っていく。
- ⑨台紙の空いているスペースに装飾する。(装飾用の折り紙作成…保健委員以外の児童も協力・参加)



⑩終業式後に体育館で、レインボーツリーの披露を行い、全校児童に完成を報告する。(委員長・副委員長が報告する文章を自主的に考えた。)

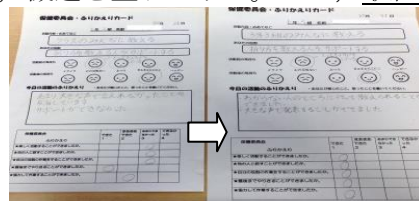
【全校のつながり】

⑪保健委員会で取組のふり返しを行う。



## 取組の課題・創意工夫『キーワード：つながりを広げる』

- ・昨年度、『「みんなの甘小」をもっと魅力ある学校にするための大作戦』の取組を児童と教職員が工夫して進めていった。それを引き継ぐ取組を各委員会で考えた。
- ・委員会で話し合っ取組を進める際、できる限り児童の考えや主体的な活動を尊重した。
- ・この保健委員会主催の取組は、全校での共同製作にすることにより、機運を盛り上げた。また、取組を進める過程で数回、ふり返りを行い、意欲の継続につなげた。
- ・学校に登校できない児童にも主旨を話し、家で折ってもらった。
- ・本校に関わり応援して下さる外部の方々（教育委員会、SC、ゲストティーチャーなど）にも参加していただいた。
- ・完成した作品を児童・教職員一同に披露する場を設定（終業式後）し、学校便り等で広く紹介した。



## 取組の成果（効果）『キーワード：主体性・自己有用感の向上』

- ・委員会等で児童が積極的に意見を出し合ったり、各学級での説明の仕方を各自で何度も練習したり、全校で披露するときの報告文を自主的に書いてきたりするなど、児童が主体的に活動する場面が多く見られた。
- ・不登校児童や長期欠席児童も参加することができ、全校での取組となった。
- ・台紙の装飾作りでは、保健委員以外の児童も次々手伝うなど、学年を超えて取組の輪が広がった。保健室登校児童も、自主的に参加した。
- ・体育館で作品を披露した時、児童が思わず「わーっあ！！」と歓声をあげ、みんなが笑顔になり、達成感を味わうことができた。体育館から退場するときも、立ち止まって見ていた。
- ・保健委員会で1人1人ふり返り文を書いたが、全員がしっかりと書くことができた。多くの人が力を合わせて完成できたことに対する感謝の気持ちをもった児童も多い。
- ・他の取組とも合わせ、自己有用感が高まった。

H28年度79%→H29年度84%→H30年度91%



私は、このプロジェクトを通してみんながつながれたと思います。

私が廊下を通ると、「お姉さん、こんにちは」と言われることが度々あり、私達保健委員と教えた人達とのつながりができたと思います。私達も、下級生に教えることで、もっと下級生のことを知ることができました。校長先生との関わりも深くなったと思います。また、各クラスに教えに行ったとき、「こうだよ」など、日頃、親しくしていない人に教えている人もいて、クラスの中でも輪が広がったと思います。

台紙に貼る作業の時は、間に合わないのではと思い心配しましたが、いろいろな人が保健室に来て、足の踏み場がなくなるまで人がいっぱい集まったときもありました。私達の取組を分かって協力してくれたのだと思いました。

保健委員1人1人が責任感をもてたのも良かったと思います。完成して、みんなに見てもらったとき、「やっとできた」と思い、本当に多くの人がつながっているんだなと、とても感動しました。

これからも、保健委員のことをもっと知ってもらえるように、委員会活動をがんばりたいです。（5年保健委員）

## 今後の展開『キーワード：ふり返り・次へつなげる』

- ・「甘笑応援団」（地域支援団体）の方々にも、来校いただいた時に、折り紙のこびとに顔と名前を書いていただき、完成したレインボーツリーにさらにつなげている。今後も、本校を応援して下さる方々がたくさんおられることを児童に実感させることができる。【地域とのつながり】
- ・保健委員会では、心の健康について自分達ができることを今後も考え、次年度につなげる。
- ・他の委員会でも、取組の成果を児童に伝え、今年度の取組のふり返りを丁寧に行い、今後の生活に生かし、次年度につなげるようにする。

## 他教科との関わり『キーワード：次年度への期待』

- ・5年生は3学期、国語の学習で自分が所属している委員会を4年生に紹介するパンフレットを作成している。5年生児童は、自分達の委員会活動が、全校の役に立っていることを再確認でき、4年生児童は、来年度は自分達の番であり、高学年になる期待と自覚をもつことができると考えられる。